

## 郷土資料館だより

Vol. 24, No. 3  
2002.2.15

## 三島宿の賑わいが伝わる浮世絵「朝霧」(広重)



天保3年(1832)、浮世絵師の歌川広重(安藤広重)は、幕府の御馬進献の一行に従い東海道を往復したといわれています。

この時東海道の景色を詳しく観察した体験を基に「東海道五十三次」(保永堂版、全55枚)の原画を描きました。このシリーズが出版されると爆発的に人気を得、何回も版を重ねます。広重の絵の優れたところは、人物や背景の配置や動き、構図の巧みさと共に、季節の空気感を表現しているところにあります。焚き火の煙や空に舞う凧、転がる道中笠などで「風」を、白と黒のモノトーンのコントラストで降り積もった「雪」を、細かい斜めのラインで「激しい雨」を表現しています。

さて三島宿はどのように表現されているのでしょうか。「朝霧」と称されるとおり、朝の冷え込みで湧水から昇った霧が立ち込める中、秋の早立ちの旅人たちが描かれています。三嶋明神(大社)の鳥居と社叢を背景に、画面中央には箱根方面へ向かう山籠と籠かき、馬子と客、荷物を担ぐ者がいます。画面をよく見ると、これら人物群は着物の模様まで細かく描かれているのに対し、すぐ後ろの三嶋明神や左手の巡礼達は淡くぼんやりしています。広重が描いた他の浮世絵との大きな違いはこの霧にけぶるしっとりとした空気による遠近の表現でしょう。霧の中に浮かぶ家並や樹林を淡く刷るのは、刷り師の腕の見せ所でした。霧の静けさの中を遠ざかる巡礼からは鈴の音がかすかに聞こえ、馬の足音が響いてくるかのようです。広重の五十三次シリーズの中で、三島のように霧を表現した作品はあまりないようです。

三島市では、三島宿駅制定400年を記念して、平成13年にこの「朝霧」のほか計8点を購入しました。今後、三島宿関係の展示にて紹介していきます。

# 新収蔵資料 浮世絵



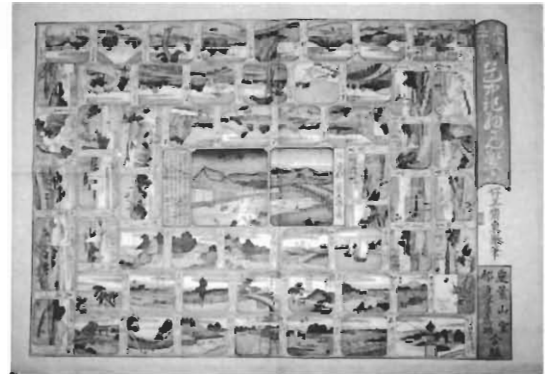
春興五十三駄之内三島 北斎 1804年(享和4年)



東海道十二 五拾三次之内 三島 初代広重



東海道五十三次三島(隸書東海道) 初代広重



東海道五十三駅 道中記細見双六 好美堂東挙 江戸末期



東海道三島(御上洛東海道)  
三代豊国



東海道五十三次之内 三島之図  
歌川国貞



五十三次名所図会三島  
三嶋明神一の鳥居 初代広重

## 好評発売中!!

企画展「箱根八里」より

★図録『箱根八里』 600円  
～西坂・石畳と五ヶ新田～

★箱根八里地図 200円  
地図を見ながら箱根八里を散策できます  
お問い合わせは郷土資料館まで



# 企画展報告 「箱根八里」

—西坂・石畳と五ヶ新田—

会 期 平成13年10月27日(日)  
 ～12月16日(日)  
 入館者数 6,696人  
 展示資料数 230点(資料110点、写真120点)  
 主な展示内容

- ① 描かれた箱根西坂—  
 浮世絵・道中絵図・古写真
- ② 接待茶屋—茶釜・看板・出土茶碗
- ③ 発掘調査で出現した西坂の石畳—  
 山中新田上から笹原新田まで
- ④ 山中宿一間(あい)の宿、「水戸屋」の遺物  
 今に続く山中新田のまつり  
 (芝切り地蔵・水神講・甲子講)
- ⑤ 箱根西坂五ヶ新田—水への信仰と祭り
- ⑥ 箱根西坂の史跡

「馬でも越す」といわれた箱根越えですが、江戸時代の徒歩での山道は険しく、幕府により箱根路に対しさまざまな援助や整備が行われました。

その一つが石畳の敷設であり、箱根西坂五ヶ新田の開設でした。今回の企画展では、こうした箱

根西坂東海道の整備について、最新の発掘調査の成果を紹介しながら、展示解説したものです。

本年は東海道宿駅制定100周年のため、箱根八里を歩く人が多く、歩き終わってこの展示を見に立ち寄る入館者が日立ちました。

箱根峠近くにあった「接待茶屋」は30年前まで無料でお茶をサービスし続け、ボランティアの原点として多くの来館者の関心を引き、一方、西坂石畳の出土写真や実際の石を見て、江戸時代の土木工事の大変さを想像する人々もいました。

なお、この企画展は箱根町立郷土資料館・小田原市郷土文化館との共同企画事業として実施しました。それぞれの館が「箱根八里」を歴史的・民俗的・美術的視点から取り上げ紹介しました。

## 箱根町立郷土資料館

「箱根八里—難所東坂を登る」

(会期 10月27日～11月25日)

## 小田原市郷土文化館

「箱根八里—小田原宿の景観」(展示 松永記念館)

(会期 10月27日～11月18日)



山中新田 甲子講の大黒像



接待茶屋の大釜



今回3館で作成した箱根八里地図(西坂、裏は東坂)

# ふるさと講座報告

## 第2回

### 「宿場歩き—岡部・蒲原宿」

平成13年10月11日(木)

講師 迫田 信行 氏

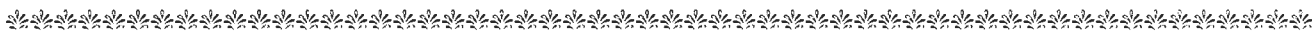
(三島市郷土資料館運営協議会委員長)

午前は蒲原宿で、ボランティアガイドの方々の説明を受け、今に残る宿場の町並みを散策しました。

午後は岡部宿で復元された大旅籠-柏屋(かしばや)で昔の旅人の気分を満喫しました。参加者 33人



岡部宿 大旅籠 柏屋



## 第3回

### 「ワクワク!宿場めぐり—小田原」

平成13年11月6日(火)

講師 小田原市郷土文化館学芸員

晴天の中、10時過ぎに小田原市の山王神社に到着し、江戸口見付—北条稲荷—古清水旅館(本陣跡)—なりわい交流館—小田原城址—上問屋場跡—大久寺—松永記念館と、江戸時代の東海道をたどりながら歩きました。参加者 34人



なりわい交流館で休憩



## 第4回

### 「ワクワク!宿場めぐり—箱根」

平成13年11月12日(月)

講師 箱根町立郷土資料館学芸員

小雨の中、三島を出発し箱根ホテル前(問屋場跡)に到着しました。シュミットの碑—高札場—箱根関所跡をめぐり、関所の発掘調査現場で担当職員より説明を受けました。恩賜公園で昼食後、箱根八里の碑—箱根旧街道—賽の河原から小田原市に向かって東坂を甘酒茶屋まで歩き、東坂の石畳を堪能しました。参加者 20人



東坂石畳を歩く参加者

# 企画展「箱根八里」関連講演会「箱根八里と箱根関所」

平成13年10月31日(水)

中郷文化プラザ 2階多目的ホール 午後7時より

講師 加藤 利之 氏

(元 箱根町立郷土資料館館長)

箱根山を東海道が通るようになったのは、源頼朝に始まる鎌倉將軍の「二所詣」(にしよもうで)であり、「箱根八里」は鎌倉幕府と江戸幕府の二つの武家政権の防衛道路で、その最大の拠点が箱根関所であったことなど、楽しい歴史ものがたりを講演していただきました。 参加者 65人



講演中の加藤先生

## ■ 小学生の体験講座 ■

### 第2回

### 「古代の生活を体験しよう」

平成13年11月10日(土)

講師 辻 真人 氏

(三島市教育委員会文化振興課学芸員)

縄文時代の生活道具の話聞き、火おこしの方法についての説明を受けました。その後グループに分かれて縄文風ハンバーグを作り、火おこしをした後、熱した瓦の上に置いてグループごとに焼いて食べました。なかなか火がつかず昔の人の苦勞を感じることが出来ました。

参加者 市内の小学校4～6年生 23人



縄文風ハンバーグを作る



### 第3回

### 「昔の道具を使ってみよう」

平成13年12月8日(土)

講師 鈴木 辰己 氏

(三島市郷土資料館運営協議会委員)

稲刈りに使っていた昔の道具を使って実際に、脱穀したり、脱穀した<sup>もみ</sup>籾を選別したりしました。その後、F1と杵で餅つきをし、つきあがったお餅を手でちぎって食べました。つきたてのお餅をほおばってみんな満足そうでした。

参加者 市内の小学校4～6年生 11人



千歯こきでの脱穀

## 中村の歴史を伝える「中 鈴木家名主文書」

平成13年に三島市街地の南、旧錦田村に属する中(村)の鈴木家より当館に貴重な古文書が寄贈されました。鈴木家は近世中村の名主を務め、戦国時代末～明治期までの中村を中心とした地域に関する古文書約600点を所蔵していたものです。

最も古い文書は慶長8年(1603)の検地のもので当時の石高503石と記録されています。後の文書から江戸時代を通じ石高の変化はほとんどなかったことがわかります。

これら鈴木家文書は錦田郷土史研究会が長年にわたり、調査・解読し文書目録作成を行いました。

また、静岡県史近世部会による調査も行われ、北伊豆地域の近世の動静がわかる文書として評価されています。

鈴木家文書の調査から、江戸時代の中村は伊豆代官、館林藩、沼津藩、菊間藩の支配領であったことも新たに解明されました。

このたび、鈴木家のご好意によって、当館に收藏されたのを機に、地域史研究の役にたつよう郷土史研究者に広く公開していく予定です。



### おめでとうございます

#### 津高重作さん

長年にわたって三島古文書読習会の運営にご尽力された津高重作さんが、このたび三島市の平成13年度生涯学習功労者として表彰されました。



小池市長より表彰を受ける津高さん(右)

### 三島市郷土資料館運営協議会委員決まる

任 期 平成13年12月1日～平成15年11月30日

委 員 長 迫田信行

副委員長 西川惣三・山岡修

委 員 鈴木辰己・諏訪部敏之・山田益美

山田 修・井出多美子・高澤辰美

高島政壽・原 知信・平沢早苗

(敬称略)



「箱根八里」展にて

# 博物館紹介

## 川越市立博物館

～郷土資料館運営協議会 研修視察報告～

平成13年10月13日、三島市郷土資料館の運営協議会委員の視察研修として、埼玉県の川越市立博物館及び小江戸の名残のある街並みを訪れました。

川越市は、埼玉県南部、武蔵野台地の北端に位置します。1960年代以降、地方の商業都市から、工業団地が造成され、宅地の開発もすすみ東京の衛星都市へと急激な変貌をとげました。

旧市街地の蔵造り建築の街並みは、明治中頃の大火後の復興にあたり防火対策として建てられ、現在重厚な蔵造り商家を中心に洋風外観の建築など各時代の建物が建ち並び、特色ある歴史的景観を見せています。コンビニエンスストアもその店構えを蔵造りに模すなど、町全体の景観の調和を図り、観光客も多く訪れています。川越特産のサツマイモを使った菓子類がつくられています。1922年(大正11)に市制施行、人口約32万人。

平成2年(1990)に開館した川越市立博物館は、常設展示室を5つのテーマに分け川越市の歴史、民俗を紹介しています。入館すると、江戸時代の城下町の全体模型を中心とした「近世小江戸川越」が広がります。江戸を支え、小江戸といわれた城下町川越の変遷、また新河岸川舟運の繁栄などを紹介しています。続いて「近・現代近代都市川越の発展」では、蔵造りの町並みの復元模型、復元商家を利用した展示室で、産業や経済の振興を中心に発展したようすがわかります。

その他「川越のあけぼの」、「武士の活躍と川越」では、土器や装身具、武具などの発掘資料、川越地方の河越氏、上杉氏、太田氏、後北条氏など群雄が活躍した時代を紹介しています。「民俗 川越の職人とまつり」では、川越祭、年中行事などの諸儀礼を映像で紹介しています。

視察当日は、わら細工作りの土曜体験教室が行われており、参加の小学生が上手にわらをなっていました。またコマ、お手玉、おはじき、めんこなど自由に遊べる体験コーナーもあります。



↑川越市立博物館

↓ 博物館館内



川越市内 蔵造りの町並み

川越市立博物館 〒350-0053  
埼玉県川越市郭町2丁目30番地1  
電話049(222)5399 FAX049(222)5396  
開館時間 午前9時～午後5時  
休館日 月曜日(休日は除く)  
<http://www.city.kawagoe.saitama.jp/kyouiku/project/hp/museum/>

# 新 収 蔵 資 料

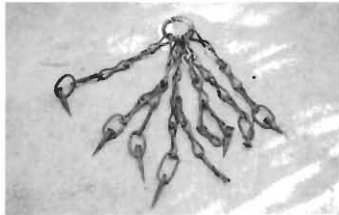
郷土資料館に次の方からご寄贈いただきました。

ご協力ありがとうございました。(敬称略)

平成13年8月～11月寄贈分

瀬川 芳孝 三島市安久

教室用机(低学年) 1点  
教室用机(高学年) 1点



ズリカン(とち鑽)(写真↑) 1点  
俵編み機 1点  
菰づつろ 1点  
天秤棒 1点  
おもり 1点  
ハモ(牛耕用首輪) 1点  
くび木 1点  
ハモ(ズリカン用首輪) 1点

藤本 留雄 三島市梅名

行李 2点  
裁ち板(家庭用) 1点  
電気掃除機 1点  
ミシン(営業用) 1点

石川 歌子 三島市加屋町

軍需毛布 2点

菅田 信次 清水町長沢

古文書 1式

堀池 茂 三島市南二日町

木製冷蔵庫 1点  
掛軸 1点

石井寿て子 三島市壺町田

「明治年戦役従軍記章」  
(日露戦争) 1点  
「大正三年乃至九年戦役従軍記章」  
(第一次大戦) 1点  
「勲功旌章」 1点  
硬貨 旭日小型10銭銀貨  
(明治40年) 1点  
硬貨 タイ製 2点

田代 律子 三島市本町

三島宿町軒図 1点

遠藤 晃由 三島市大宮町

三島絵葉書 10点  
(昭和初期)

加藤 雅功 沼津市下河原

『三島町誌稿』 1点  
(昭和11年刊)

## トピックス

過日、ふるさと講座で小田原市と箱根町を訪れましたが、12月6日(木)に、箱根町立郷土資料館と小田原市郷土文化館との3館合同で、『ワク! ワク! 宿場めぐり—三島』が行われました。小田原市と箱根町よりの参加者46名が、三島宿を歩き、雨上がりの三島の街を楽しみました。

## お知らせ

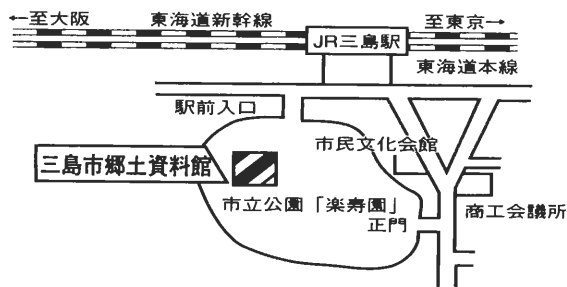
現在、郷土資料館は、館内の改装工事のために閉館しております。みなさまにご迷惑をおかけしておりますが、4月2日から、開館いたします。

その間、お電話などの問合せに対しては、お答えできる範囲でお答えいたしますが、館自体は工事中で、入館はできませんのでご了承ください。

なお、販売物の購入等は直接、郷土資料館にお問い合わせ下さい。

## 利用案内

休館日 毎週月曜日(祝日の時は翌日、12月27日～1月2日)  
開館時間 午前9時～午後5時(4/1～10/31まで)  
入場無料 (但し、楽寿園入場の際、有料)



三島駅(南口)から徒歩5分。市立公園楽寿園内

郷土資料館だより Vol.24 No.3(第72号)

発行日 平成14年(2002)2月15日  
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館  
〒411-0036 三島市一番町19-3

楽寿園内

TEL 055-971-8228

FAX 055-981-3730

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp

URL: http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo

発行 三島市教育委員会